

事業者・市民活動団体に対する アンケート調査結果

(参考) 質問項目の内容

1. 交野市が今後どのようなまちになれば良いと思いますか。
2. 1で記入したまちになるために、貴事業者・団体で取り組むことが考えられる活動
3. 2で記入された事業活動に取り組むにあたり、社会変化として課題を感じていること
4. 2と3でご記入いただいた活動に取り組むにあたり、市に期待すること
5. その他 自由意見

事業者に対するアンケート結果

(1) 調査概要

調査目的： 交野市第5次総合計画基本構想の策定にあたり、市内事業者の抱える課題や実情を把握するため、商業連合会、工業会の役員を対象にアンケート調査を実施

調査方法： (依頼) メール・直接配布 (回答) 回答フォーム、直接回収

(2) 結果概要

問1) 交野市が今後どのようなまちになれば良いと思いますか。

◆自然環境を活かしたまち

- ・豊かな自然と歴史深き地域を守りつつ、子育て、高齢者が住み良い町を維持したい
- ・自然に囲まれた田園都市
- ・自然環境を活かした観光のまち（グランピング・温泉・農漁「山の中の養殖」）
- ・自然に恵まれた環境を活かした住みやすいまち
- ・自然と調和して「心を育てられる市」

※文明発達、機械化、情報社会が進む中で、人として本当に必要な地球と共に生きる

- ・自然があり、交通利便性が高く、静かで過ごしやすいまちとして、成長・人口増加を期待している。自然を生かしたレジャーで他市から人を呼び込むチャンスはある
- ・恵まれた自然環境と近年整ってきた交通インフラを活かすまち
- ・交野の豊かな環境保全のためにカーボンゼロシティを目指したまち
- ・自然や文化を大切に残していくまち

◆みんなが安心して暮らせる、つながりのあるまち

- ・行政と住民が協力し、地域で暮らす人が「つながれる」まち
- ・高齢者や子どもにやさしいまち
- ・親しみのある安心で親切なまち（これまでのように落ち着いた安心できるまちのままであってほしい）
- ・コロナ禍や高齢社会などの社会変化を契機に、社会環境の変化に対応したまちのあり方を再構築して、まちの人々が助け合う優しく安全で安心なまちであってほしい
- ・高齢化が進む中で独居老人も増え、地域のつながりの中で元気に活動できるまち
- ・高齢社会を迎えるにあたり、お年寄りが安心して暮らせる交野を考えてほしい。住み良い交野には程遠い
- ・代々住んでいる方、高齢世代、若い世代、子育て世代が混在するまち

◆活力のあるまち

- ・ 学術・文化・教育機関を誘致し、住宅都市だけでなく、雇用も法人税もとれるまち
- ・ 星田北のように発展を望むのであれば、病院、保育施設、公園と治安の充実
- ・ 恵まれた自然環境と近年整ってきた交通インフラを活かすまち
- ・ 若者向けの商業施設を誘致してほしい、衣料関係の店を誘致してほしい
- ・ 市内で若者や家族が楽しみ、活動できるまち
- ・ 若い人口の増加が一番大切。緑豊かなだけでは少し魅力に欠ける。人を呼び込み雇用、税収を生み出すものが必要
- ・ 優良企業の誘致やサテライトオフィスの開設などを積極的に推し進め、人口の増加、まちや商店には人が溢れ、活気あふれるまち（飲食事業者として、昨今の人口減少問題は直接的で危機感を覚える。集客の基本は魅力ある店づくりだが、絶対的には人口（消費者）増の上に成り立つものとする）

◆子育て世代が住みやすいまち

- ・ 子育て世代が住みやすくなると良い
- ・ 子育て世代にすみやすい街づくり。保育所サービスを他市よりよくする
- ・ 少子化を抑制するため、出産前後と小学校までの支援ができるまち

◆その他

- ・ 今後は「交野市が」という単位で考えると非常に難しく、市を統合し、一定の人口にした上でまちづくりを検討した方がよい
- ・ 若い世代がもっと地元愛を持ち、新しい世代に交野の魅力を引き継いでいくまち

問2) 問1でご記入いただいたようなまちになるために、貴事業者で取り組むことが考えられる活動があればご記入ください。

◆働きやすい環境づくり

- ・ 従業員の職住近接
- ・ 保育所入所待ちの人も積極的に採用する

◆商品開発

- ・ 自社をより開発型に変えていくこと
- ・ 地産池沼の酒を開発する
- ・ 観光の一環で名産品やご当地グルメの開発

◆みんながつながる事業展開

- ・ 今後は流通商業者が一体となって、必要なものを必要なだけ届けるサービスが必要
- ・ 数多くの団体が存在するが、個々の活動を大切にしながら、一致団結して一つの大きな活動をする機会があってもよい。イベント、お祭りでもなんでも良い。一体感を出せば、市外の人たちへのアピールになる。その企画やPRに関する分野でサポートできる。

- ・実体験として、商店等での交流、出会いは近辺で情報交換の場所として、触れ合い言葉を交わせる空間でありたい
- ・団体と市民で参加しやすい行事を計画する
- ・新しい商店・施設と既存店の両方が繁栄できる取組みができればよい
- ・森林でお灸を受けられるイベントなど、鍼灸師が集まり交野を盛り上げる

◆高齢者の活躍と支援

- ・高齢者がこれまでの仕事の経験等を活かして再就職できる環境づくり。事業者はどのような高齢者の人材を求めるかを全面的に打ち出し、高齢者に対応した人事システムを導入する
- ・ひとり暮らしの高齢者に食事を提供する

◆その他

- ・ZEB（ゼロ エネルギー ビル）の取組み、既存施設への ZEB Ready なら取り組める
- ・商品券を使った活動をもっとやりたい（コロナでまちに元気がない）
- ・コロナ禍により助けが必要な人に対して、重荷にならない程よい関係性（サステナビリティ×コミュニティ）が必要。地域 SNS（Twitter、Instagram、YouTube）を活用し、使い分けることで幅広くターゲットに情報を伝えられる
- ・事業拡大により今あるモノを活かす
- ・心を育てる＝子どもではなく親世代、その上の世代の方
- ・飾らずしっかり商売することで、一人でも多くの方に安心していただきたい
- ・子ども達が集まるような展示等の催し物

問3）貴事業者が問2で記入された事業活動に取り組むにあたり、社会変化として課題を感じていることがあればご記入ください。

◆高齢社会に関すること

- ・酒類小売業の後継者がいないことへの不安
- ・高齢者を積極的に雇用するにあたり、補助金等で事業者の負担を解消する。事業者は低コストで、戦力になる雇用を確保できる
- ・高齢者に SNS の興味をもってもらえないこと
- ・高齢者の買い物はインターネットではないのが現状
- ・高齢化しているので、年齢にあった行事が必要
- ・老老介護や、高齢者が安全に DX・キャッシュレス決済に順応できるか危惧がある

◆移動・交通手段の充実

- ・高齢者が多くなり、外出するための交通手段がより良くなることを望む
- ・現在の高齢者世代が健在のうちに自動運転バスなどの交通手段の実施を願う
- ・星田駅北の開発に伴い、市内循環バス、直 Q バスの乗り入れを望む
- ・公共交通機関が乏しいので、外出しやすい環境を整備する

◆その他

- ・小売商店や小規模企業の存続
- ・コロナにより集客、周知の難しさがある
- ・農業生産者と飲食製造者との結びつきが難しい
- ・人口減少だけではなく、若い世代が挑戦する場が少ないことに、今後の市の活性化の面で不安を感じる。年配世代が若い世代のサポートを積極的に行い、魅力あるまちに育てていくことが大切と考える
- ・低価格の住宅があれば有り難い
- ・商店街として次世代の期待は大きい
- ・市の広報板や広報紙等をもっと柔軟に活用させてほしい
- ・再エネの共同購入などは良い取組みだが、原油高やウクライナ侵攻の影響で、再エネに限らず電気の価格と供給が不安定であること
- ・市内の空き家を活用して、ご近所付き合いが活発になればと思う
- ・交野市民では子育て世代が少なく減少傾向で応募がない

問4) 問2と問3で貴事業者がご記入いただいた活動に取り組むにあたり、市に期待することがあれば記入してください。

◆助成金・補助金等の支援

- ・SNSを始める事業者に対する勉強会や講習会の開催
- ・市民や事業者に補助金や利用できる支援制度の案内
- ・流通事業者を束ねる専門機関の設置と地域イベントの開催
- ・消費を促進させる助成を期待したい

◆交通手段の確保

- ・多様な交通手段の確保
- ・茨城県境町のマクニカ自動運転バス
- ・公共バス
- ・山間部では交通手段が少なく、シティバスの運営を望む

◆市や市職員に対して

- ・市の明確な目標が必要
- ・役所内で新人や若い人たちの話をもっと真剣に聞いてみてはどうか
- ・地酒開発を酒造会社とともに市職員の方も一緒をお願いしたい
- ・デジタル化が進むので「人と人」が重要。アンケートではなく、足と耳で確認されてはどうか？机上では本当に必要なものは分からないのではないかと
- ・市の顔である市役所の移転を望む。狭く細い道路でない方がよい。
- ・カーボンニュートラルに取り組む大手民間企業との連携、市施設のZEB化

◆子育て等の支援

- ・保育に必要な物はすべて保育所の物を使えるようにするなど、保育所サービスを向上させる
- ・小学校のランドセルを廃止し、市が軽量で丈夫なリュックをつくり、小学生になったら無料でお祝いとして渡す

◆起業サポートや教育・研究機関等の誘致

- ・起業など若い層へのサポート
- ・学術、文化・教育機関の誘致

◆その他

- ・健康意識向上のアプローチ、広報や市の SNS 等による情報発信
- ・防犯カメラ、外灯の設置
- ・コロナ禍により減少した企画・イベントの増加
- ・星田駅南側の整備計画も忘れないように
- ・住居表示のプレート設置や最新の住所を地図に表示してほしい
- ・星田北の開発により、既存商店会が脅かされることがないように、行政も何か協力できないか

問5) その他ご意見があれば自由に記入してください。

◆市政運営について

- ・市の統合と、有識者でのビジネス感覚のある市政
- ・仕事を頑張るではなく、楽しんでください
- ・市広報の掲載について、ある程度のルールは必要だが、市はもう少し柔軟に対応できないか。事業者や企画イベント等を応援する姿勢でルール運用を考えてほしい
- ・現在の流行は周期が早いので、常に次、その次のことを考えねばならない

◆子育て支援について

- ・寝屋川市に住んでいる娘に話を聞くと、コロナや子育て世代に特に力を入れていると聞く。交野市はどうだろうか
- ・守口市では0歳から保育所は無償化になっている。四條畷市は若い世代は増えている。交野市も何かに特化した対策を取らなければ若者が転出していき市財政も悪化していくことが考えられる

◆地域活性化について

- ・「まち・土地・ひと」の魅力向上が、「企業→雇用→人口」の増加につながる
- ・街をどうやったら活気付けられるか、いろいろな団体とディスカッションする場を設けてもらいたい
- ・交野市は良い意味での田舎であり、空き家や空き店舗などを安く使える制度があれば、夢をもって交野に住まれる方が移住してくれるのではないかと

◆その他

- ・発展も大切だが今あるものを見つめ直し、土地の人も他から転入された方も共に、交野を「ふるさと」と思えるような素朴な街にしていきたい
- ・治安がより悪くなるにあたり、星田駅前交番の設置を願う

市民活動団体に対するアンケート結果

(1) 調査概要

調査目的： 交野市第5次総合計画基本構想の策定にあたり、市民活動団体の抱える課題や実情を把握するため、市民活動ネットワーク「わいわいネット」の登録団体を対象にアンケート調査を実施

調査方法： (依頼) メール (回答) 回答フォーム

(2) 結果概要

問1) 交野市が今後どのようなまちになれば良いと思いますか。

◆多世代が地域の中でつながり合うまち

- ・ 年代を問わず、地域の方々がつながりやすいまち
- ・ 世代間を越えての生きがいと融和を構築するための地域活動が活発なまち

◆「自然と文化とひと」を大事にするまち

- ・ 交野市に自然を愛する人が集まり、ご家族や子どもたちの笑い声が聞こえる町
- ・ 「自然」と「ひと」を大切にし、市民の声が行政に反映されるまち

◆自然を活かし、にぎわいを生み出せるまち

- ・ 天野川や周辺の山野の自然に、自然と文化、芸術が一体となったコンセプトのある空間あるまちづくり（天野川が市民の憩い・学び・芸術の場にしたい）

◆さまざまな主体がともに「交野愛」を育むまち

- ・ 市民活動、地域活動、商業や工業、行政などの様々な主体による共助、連携がこのまちを支え、発展につながり、「交野愛」を育むまち

◆心豊かに自分らしい生き方ができるまち

- ・ 「こころが豊かな生き方」ができる街
- ・ 偏った意見の運動に引きずられることのない町（知識、原理で物事を判断できるよう論理的な姿勢を身に付け、自分の意思を明確な根拠を持って示すことができるようにしたい）

問2) 問1でご記入いただいたようなまちになるために、貴団体で取り組むことが考えられる活動があればご記入ください。

◆農業の振興

- ・ 遊休耕地の活用で、準農家を目指す人の育成（販売が出来る人）を図る
- ・ 障がい者の農地体験

◆こころのケア

- ・ 対人関係の問題を中心に、カウンセリング心理学理論や臨床心理学理論を基礎において対人関係の改善や心の問題の軽減に向けた講座を提供している

◆地域における環境美化活動

- ・ 天野川や周辺の清掃活動
- ・ 植樹、歌碑の建立などの景観整備活動

◆定期的な問題提起

- ・ 日常の生活で考えなければならない問題を取り上げ、多面的な視点から資料を集め話し合っている

◆地域資源の活用

- ・ 河川資源を活用して販売できる商品化の考案、試行（例：天野川セイタカヨシパウダー）

◆子育て・子どもの成長に係る支援

- ・ 子どもたちの表現活動の育成と推進のための取組の企画提案
- ・ 子どもたちのために活動している諸団体への支援
- ・ 子どもと保護者の居場所づくり、安全な居場所の確保（あまのがわ子ども食堂）
- ・ 子ども団体の支援

◆市民団体活動の活性化

- ・ 市民団体の発展推進のための企画提案（将来的には様々な主体との協働や連携を模索していきたい）

◆地域における多世代の交流の場づくり

- ・ 地域交流の場としてのお店づくり。スイーツバイキングやミニ音楽会を開催し、食事をしながら楽しめるイベントの開催
- ・ 手作りおもちゃの指導と世代間交流の支援（地域イベントに参加して交流を促進）
- ・ ディスコンスカイクロスのゲーム指導と体験会の実施（地域の交流会参加で高齢者の健康促進と世代間交流の促進を図る）

問3) 貴団体が問2で記入された事業活動に取り組むにあたり、社会変化として課題を感じていることがあればご記入ください。

◆地域や団体の担い手の不足

- ・ 世話役して頂ける方の募集等に苦勞している（会員50名で、世話役10名は必要）
※定年が伸びていき、60歳で地域ボランティアをしようという時代ではなくなった。
- ・ 少子高齢化によるボランティア人口の減少
- ・ 子育て世代が地域活動に関心を持ってなくなっていると感じる。地域活動を主体的に担っている高齢世代とこれからの主体になってほしい子育て世代の認識や考え方のギャップが大きく、このままでは地域活動の後継者がいなくなり立ちいかなくなるのではと危惧している
- ・ 市民活動も高齢化を含め、組織の硬直化の課題を抱えているところが多い。団体の継続や創出を含めて、何らかの働きかけが必要
- ・ 会員の高齢化に伴いグループ会員の減少に悩んでいる。若い人の参加が得られるか継続する方法を模索、構築

◆公共心や社会的な連帯感の薄れ

- ・ 自分のまちは自分の手できれいにするといい「公共心」「社会的な連帯感」が希薄になりつつあること

◆コロナによる家庭生活や事業運営への影響

- ・ コロナ禍で、子供たち・家庭のストレスが蓄積されている感じがあり、子供の成長にどのような影響があるのか心配であり課題と感じる。子どもの言葉を聞く必要がある
- ・ 就労継続支援B型で飲食店を運営していますが、コロナの影響を大いに受けている。またB型事業所は増えており、事業運営において利用者が減少しているのは課題を感じている

◆その他

- ・ 福島原発による風評被害に関して、福島県産の食べ物は敬遠するという人たちが今なお約25%おり、なぜ科学的な判断が反映されないのか

問4) 問2と問3で貴団体にご記入いただいた活動に取り組むにあたり、市に期待することがあれば記入してください。

◆活動に対する各種の支援（費用・機材・場所・広報など）

- ・ 活動費用、機材の支援（会場費、パソコンなど）
- ・ 広報活動
- ・ 世話役の活動費捻出のアイデア
- ・ 活動場所や会場など施設利用料の支援
- ・ 公益性の高いボランティア活動への資金援助

- ・ 現在の活動内容を広く知っていただく機会が必要（市広報で市民活動団体の内容を詳しく掲載し、若い人の関心を求める）
- ・ 地域イベントや地域活動が活発になるよう予算措置を充実させる

◆市職員のレベルアップ

- ・ 市職員の採用基準や人材開発制度のレベルアップ（デスクワークだけではなく、創造的な思考でまちづくり、仕組みづくり等の企画、実施ができる事業家タイプの人材の採用、育成）

◆子育て及び子どもの成長に係る支援体制の強化

- ・ 就学前と小中高の 18 歳までの一貫した支援体制が必要（就学前の支援は厚いが、それ以降の支援は体制が取れているとは言えない）
- ・ こどもや子育て家庭への支援を、市民活動団体や民間を含めて連携、協働で進めてもらいたい

◆新たな主体との連携による地域活動の活性化

- ・ 自治会の地域活動では、新たなアプローチが必要（大学や NPO など専門機関の協力、提案をもらいながらモデル区を設置して実践していてもいいかもしれない）

◆高齢者や障がい者の外出支援に係る環境の整備

- ・ 交野市内は交通の便が良いとは言えないので、高齢者や障がいのある方には、外出しやすい環境が必要（他市で実施されている年配、妊婦、障がい者を対象にした乗り合い事業が良いと思った）

問5) その他ご意見があれば自由に記入してください。

- ・ 活動費の支援とアイデアが必要
- ・ 各種活動をされている人たちに報いる方法はないか
- ・ まちづくりの基本的な方針（どんなまちにしたいか）については、ビジョンが必要と思う。まちづくりは一朝一夕では実現せず、長い期間を経て目指すものであるため。交野市には「こども条例」や「市民活動推進条例」がないが、今必要なのは、そういったビジョンになりうるものではないかと思う